



衣川 重介

『明延 (あけのべ) 鉱山』



鉱石の道
 産・業・遺・産
 明延・神子畑・生野

2015年10月17日、講座『鉱山の歴史』明延鉱山の見学に参加しました。主催はNPO法人 妙見山麓遺跡調査会、いつもお世話になっている神崎勝先生が主唱されています。

集合時間は現地、明延振興会館前（一円電車の展示場所）で10時でしたが、私は神子畑（みこばた）の鑄鉄橋と明延、両松寺（りょうしょうじ）の梵鐘撮影を先にしようと、早朝 7時に自宅を出て、所用を済ませてから合流しました。

明延鉱山は、650mほどの体験坑道が整備されていて、見学が出来ます。女性のガイドさんに案内してもらいました。坑道には足元にレールが敷設され電池式の機関車やトロッコが走れるようにしてあり、鉱山が稼働していた時と同様です。又、当時のボーリング機や巻き上げ機なども展示されています。

私の目はすぐに黄色く塗られたトロッコの下、連結用のチェーンを見つけます。ガイドさんがそれは何ですか？と尋ねます。私の仕事はこんなチェーンを作っているのです。そう説明しました。8名の見学者ですが、それぞれ電気技師であったり機械関連のエンジニアだったり。自分の興味のある機械を見つけるとジックリと観察します。ガイドさんの話はそっちのけで、『もう先に進みますよ！』など、ガイドさんはやりにくそうでした。でも私はガイドさんの以下の話は聞いていました。

昭和62年、円高によって安い鉱物が外国から輸入されるようになった結果、多くの鉱物資源を地中に残して閉山した。明延鉱山は、明治42年に錫（すず）の鉱脈が発見され、「日本一の錫の鉱山」として大正・昭和と栄えました。開削した坑道全体の延長は 550km。坑道の垂直距離は約 1,000mで、海面下約 130mまで掘り下げられています。明延の人口は最盛期には 4千人、世帯数は 1,200戸にもなりました。錫の産出量は国内第 1 位、全国の90パーセントを占めました。坑道の中は涼しく、一部は現在酒の熟成蔵として利用されています。気温は 14℃でした。昭和 6年（1931年）には但馬で初めてのプールが出来、協和会館ができました。この会館では映画が上映され、有名な歌手がたくさん訪れ『美空ひばり』以外の有名歌手は皆見たと言われる程だったそうです。ガイドさんのお父さんも鉱山で働いておられたのです。

鉱山見学のあとは鉱石と、この地域に詳しい谷口様に従業員宿舎、共同浴場、ボタ山、小さな鉱脈の露頭など案内して頂きました。『この石をみてください。』露頭の近くの道ばたに落ちていた石コロを拾い上げ『磁石もつくかな、この金色の部分には黄銅鉱です。』そう教わり、さっそく磁石で確認、磁石につきました。最後に谷口様の貴重な種々の鉱石を見せて頂き楽しい見学会でした。

明延の体験坑道



トロッコの鎖



天井に残る鉱脈



酒の熟成蔵

来て！見て！ふれて！

ふしぎ体感

『鉄のふしぎ博物館』



天然磁石

磁鉄鉱の結晶

ホームページと電子メールをご利用ください。

<http://www2.memenet.or.jp/kinugawa/>

<http://www.kanamonoya.co.jp/catena/hyoushi.html>

ryou@memenet.or.jp



2016.01.20

雪の姫路城